

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教 育 学 ）	氏名	金 炫 勇
学位授与の要件	学位規則第4条第1・②項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>韓国における剣道の普及に関する研究 －学校剣道を中心に－</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教 授 松 尾 千 秋</p> <p>審査委員 教 授 黒 川 隆 志</p> <p>審査委員 教 授 東 川 安 雄</p> <p>審査委員 教 授 林 孝</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、まず、韓国における剣道の歴史及び学校剣道の変遷を明らかにすることによって、「剣道の韓国起源説」や韓国の剣道に関する誤謬について精察し、次に、韓国青年を対象とした剣道に対する意識調査により、剣道の経験度別、男女別、韓国を代表する専門剣道家などの剣道に対する意識の実態を比較検討するなかで、韓国における学校剣道の今後のあり方を追究し、韓国における剣道及び学校剣道の普及・発展に資する知見を得ることを目的とするものである。</p> <p>本論文は、序章と終章を除いて、大きく2部から構成されている。</p> <p>序章「研究の背景と研究目的」では、問題の所在、先行研究の検討、用語について、研究目的、研究方法が述べられている。</p> <p>第1部「韓国における学校剣道の変遷」は、次の3章から構成されている。</p> <p>第1章「韓国における剣道の導入期」では、韓国における剣道が朝鮮政府の政治的理由により日本より導入され、学校体育として体系化されていった経緯を明らかにしている。</p> <p>第2章「植民統治期の朝鮮における学校剣道」では、武断統治期、文化統治期、皇国臣民統治期の3期に区分し、学校体育が戦時体制における軍事訓練へと化していく中、剣道は朝鮮国民の反日感情の対象となり、戦後、韓国のナショナルカリキュラムから外されていった経緯を明らかにしている。</p> <p>第3章「戦後の韓国における学校剣道」では、剣道組織化及び学校剣道の導入期、エリート学校剣道の成長期、生活体育剣道及び学校剣道の発展期の3期に区分し、戦後、韓国の学校剣道が特殊機関学校を中心に復活したこと、また、日韓交流再開を機に、体育特技生の専門体育としての剣道がスタートしたこと、さらにはソウルオリンピックを機に、韓国国民の剣道への興味・関心が一層高まり、やがて、学校の体育科において選択科目として位置づいた経緯を明らかにしている。</p> <p>第2部「韓国青年における剣道の捉え方」は、次の3章から構成されている。</p> <p>第1章「剣道の経験度による比較」では、韓国の首都圏に在籍している青年（高校生、</p>			

大学生、剣道の体育特技生)を対象に剣道に対する意識調査を行い、剣道の経験度すなわち「剣道の経験がない者」、「剣道の授業を受けた者」、「剣道の経験が長い者」の3つに区分し、それぞれの特徴について明らかにしている。そして、剣道授業においては技能学習だけではなく、武道的特性を学ばせる学習内容や指導方法が求められ、剣道の経験度に応じた学習指導の工夫が重要となることを示唆している。

第2章「男女による比較」では、韓国の首都圏に在籍している青年(高校生、大学生、剣道の体育特技生)を対象に剣道に対する意識調査を行い、「男子」、「女子」に区分し、それぞれの特徴について明らかにしている。そして、男子の場合は、試合の楽しさを伝える工夫、一方、女子の場合は、形(型)中心の学習を取り入れるなど、男女それぞれの特徴を踏まえた学習指導の工夫が重要となることを示唆している。

第3章「剣道の体育特技生とナショナルチーム剣道選手の比較」では、韓国の首都圏の大学に在籍している「剣道の体育特技生・男子」と「第14回世界剣道選手権大会出場の韓国代表候補選手(ナショナルチーム剣道選手)男子」を対象に剣道に対する意識調査を行い、それぞれの特徴について明らかにしている。そして、剣道が国際化し、スポーツ化したとしても、剣道の武道的要素は失われないように配慮すべきであることを示唆している。

終章では、本論文の成果と意義をまとめ、今後に残された課題を明らかにしている。

本論文は、以下の点において高く評価することができる。

- (1) 韓国における剣道の歴史及び学校剣道の変遷をより詳細に明らかにすることにより、韓国内外において論じられている様々な問題を解決するための糸口を見出したことである。具体的には、『高宗実録』『純宗実録』などの内容を詳細に分析し、韓国における剣道の導入時期の様子を具体的に示したこと、また、イデオロギーや体育政策の変化に応じて、剣道及び学校剣道が極めて流動的に変遷した点を明らかにしたことなどにより、韓国の剣道及び学校剣道に関する誤謬について精察し、近年、国際社会で浮かび上がっている「剣道の韓国起源説」の問題解決に貢献することができたことである。
- (2) 韓国青年を対象にした剣道に対する意識調査により、剣道の経験度による比較、男女による比較、剣道の体育特技生とナショナルチーム剣道選手による比較を通して、それぞれの特徴を究明し、これにより、今日課題となっている若者の剣道離れ問題、さらには、剣道の体育特技生の減少問題などを解決するための剣道授業づくり及び剣道指導において、大いに参考となる示唆を得ることができた。本研究において、剣道の経験のない者から韓国ナショナルチーム剣道選手に至るまで、韓国青年の多様な剣道の捉え方、剣道に対する考え方を実証的に明らかにした点は、今後、韓国の剣道及び学校剣道の普及、発展に資するものとなることが期待される。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士(教育学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成27年2月12日